KYOTO
GRAPHIE
international
photography festival

KYOTOGRAPHIE
京都国際写真祭 2017
EDUCATION KIT

2017.4.15 |Sat.| – 5.14 |Sun.|
www.kyotographie.jp

目次

3 KYOTOGRAPHIE　国際写真展とは
4 2017年のテーマ「LOVE」
5 エデュケーションキットについて
6 KYOTOGRAPHIE 2017 出展作家
KYOTOGRAPHIE 地図

7 - 9 アーノルド・ニューマン
ー マスタークラス ーポートレートの巨匠ー　presented by BMW

10 - 12 山城知佳子 ー 土の唄

13 - 15 ハンネ・ファン・デル・ワウデ ー Emmy's world

16 - 18 ラファエル・ダラポルタ ー ショーヴェ洞窟

19 - 21 イザベル・ムニョス ー Family Album

22 - 24 TOILETPAPER MAGAZINE
– Maurizio Cattelan & Pierpaolo Ferrari presented by FUJIFILM

25 - 27 ザネレ・ムホリ – Somnyama Ngonyama | 万歳、漆黒の雌ライオン

KYOTOGRAPHIE
京都国際写真祭 2017

主催：一般社団法人 KYOTOGRAPHIE
共催：京都市、京都市教育委員会

［教育プログラム担当］
鈴木秀法（すずきひでのり）
TEL：090-1905-2580

[English Contact]
Lauren Hadler / Exhibition Production &
Education Program Director
Mobile. 080 6155 1220
KYOTOGRAPHIE Office Tel/Fax.
075-708-7108
lauren.hadler@kyotographie.jp
www.kyotographie.jp

[事務局]
〒602-0898 京都市上京区相国寺門前町 670-10
Tel. 075 708 7108

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭とは?

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」は、世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、
日本でも数少ない国際的な写真祭です。一千年の長きにわたって伝統を守りながら、
その一方で先端文化の発信地でもあり続けてきた京都。その京都がもっとも美しいといわれる春に開催されます。
日本および海外の重要作品や貴重な写真コレクションを、趣のある歴史的建造物やモダンな
近現代建築の空間に展開し、ときに伝統工芸職人や最先端テクノロジーとのコラボレーションも実現するなど、
京都ならではの特徴ある写真祭を目指します。

これまで

2011年の東日本大震災を受け、日本と海外の情報交換の稀薄さを目の当たりにしました。
それはおのずと双方の情報を対等に受信発信する、文化的プラットフォームの必要性への確信となりました。
日本はカメラやプリントの技術は世界を先導しているにもかかわらず、
表現媒体としての評価が日本ではまだまだ低いと感じられる「写真」。私たちはここに着目し、
その表現手段としての「写真」の可能性を見据えるべく国際的フェスティバルを立ち上げ、
この世界が注目する伝統と革新の街「京都」で実現することを誓いました。

これまで多くの企業や団体、個人の皆様のみならず、市、府、国のご協力もいただきました。
このフェスティバルの発展は皆様のご支援なくしてはありえません。
国際的とはまだまだ言い難い日本と海外を対等に繋げるべく
私たちは日々試行錯誤を重ねておりますが、同時に様々な出会いも生み出されています。
私たちはそこから新しい価値が生まれてくることを信じ、このフェスティバルをさらに発展させるべく邁進します。

2017年のテーマ

LOVE

“写真は人生との愛の戯れ”
Burk Uzzle (American photojournalist, previously member of Magnum Photos and president from 1979 to 1980)

KYOTOGRAPHIE は「LOVE」をテーマに、記念すべき第５回を開催いたします。

私たちが「愛」と呼ぶ感覚や概念は、宗教観、歴史観、地域性、生活環境など、個々のバックグラウンドによりそれぞれ異なります。
しかしその差異や軋轢が、時に愛を憎悪へと反転させ、時に無関心という愛の大きな欠如となり、社会的弱者へのいわれのない暴力など、現代社会が抱える深刻な事態へと発展することもあります。
だからこそ人類は、愛がいかに偉大で不可欠なものであるかを知り、いわば本能的に多種多様な愛を求めてしまうのかもしれません。

私たちは「愛する」ことは、自分以外の存在を認め、つながることだと考えます。
愛することによって、他者とつながり、社会とつながり、自然とつながり、芸術とつながり、そして自分とつながる。
そうしていけば、いつか世界は平和になると信じています。

写真を通じて「愛」を共有すること、これが私たちのフェステバルで実現させたい変わらぬ夢です。

KYOTOGRAPHIE 共同創設者／共同代表
ルシール・レイボーズ & 仲西 祐介
KYOTOGRAPHIE Founders & Co-Executive Directors

© Kate Barry 2013

エデュケーションキットについて

このエデュケーションキットは小学校、中学校、高校の学生の方たちがKYOTOGRAPHIE 2017に訪れる際に、教員の方に参考にしていただくために作成されました。

豊かなカリキュラムを提供するために、今回16のKYOTOGRAPHIEの展示の中からさらに7つの展覧会を選び、紹介しております。これらの展覧会の内容は、視覚芸術の授業に関連するだけでなく、人文科学、言語、文学の分野で学習のつながりとなる貴重な機会を提供します。

このエデュケーションキットは視覚資料を通して学生やお子さんの自主的な探求学習を刺激することを目的としています。KYOTOGRAPHIEの展覧会を通して紹介する幅広いトピックについて、学生の視覚的なリテラシースキルを発達させ、より深いディスカッションをする機会や好奇心を刺激する機会を提供したいと考えております。

生徒のかたとKYOTOGRAPHIEに訪れる際はぜひ、このエデュケーションキットをご利用ください。

このガイドには各展覧会について、以下のトピックを含んでいます：

展覧会とアーティストについての紹介、
学生が作品をより理解するための質問、話し合いのトピック、作品の解説と問いに対する返答
展示会に訪れた後のフォローアップのための質問

KYOTOGRAPHIE 2017 マップ

出展作家数　二十数名ほか、コレクション展を含めると約100名
参加作家国籍　9ヶ国ほか、コレクション展を含めると多数
会場数　京都市内16ヶ所

1. フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション（フランス）
– Theatre of Love
虎屋 京都ギャラリー

2. アーノルド・ニューマン（アメリカ）
Arnold Newman　presented by BMW
二条城 二の丸御殿台所・東南隅櫓

3. 山城知佳子（日本）Chikako Yamashiro
堀川御池ギャラリー 1・2階

4. ジャダ・リパ（イタリア）Giada Ripa　presented by Ruinart
ギャラリー素形

5. ハンネ・ファン・デル・ワウデ（オランダ）
Hanne van der Woude
嶋臺（しまだい）ギャラリー

6. 吉田亮人（日本）Akihito Yoshida
元・新風館

7. スーザン・バーネット（アメリカ）Susan Barnett
元・新風館（姉小路壁面）

8. ラファエル・ダラポルタ（フランス）Raphaël Dallaporta
京都文化博物館 別館 1階

9. ルネ・グローブリ（スイス）René Groebli
京都文化博物館 別館 2階

10. MEMENTO MORI
ロバート メイプルソープ写真展 ピーターマリーノ コレクション
presented by CHANEL NEXUS HALL
誉田屋源兵衛 竹院の間

11. イサベル・ムニョス（スペイン）Isabel Muñoz
誉田屋源兵衛 黒蔵

12. ヤン・カレン（香港）Yan Kallen
無名舎

13. 荒木経惟（日本）Nobuyoshi Araki
両足院（建仁寺内）

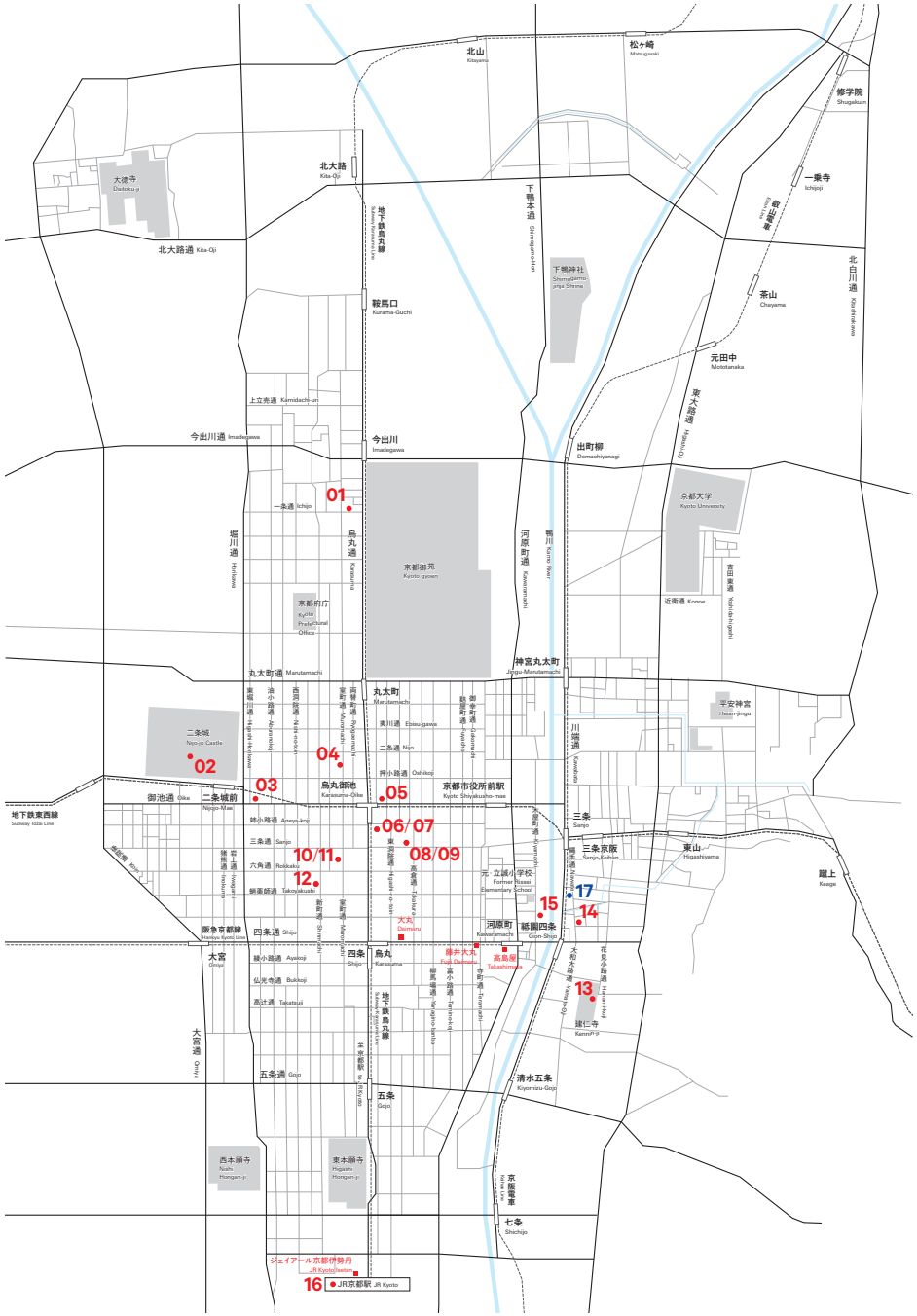
14. TOILETPAPER
Maurizio Cattelan & Pierpaolo Ferrari（イタリア）
presented by FUJIFILM
ASPHODEL

15. ザネレ・ムホリ（南アフリカ共和国）Zanele Muholi
FORUM KYOTO

16. ゴールデンウィーク 特別共同企画
amour, amours… from my photography collection
アニエスベー フォトコレクション
美術館「えき」KYOTO

アソシエイテッドプログラム

17. LOVE Photobook Library
from SIGMA Collection
SferaExhibition

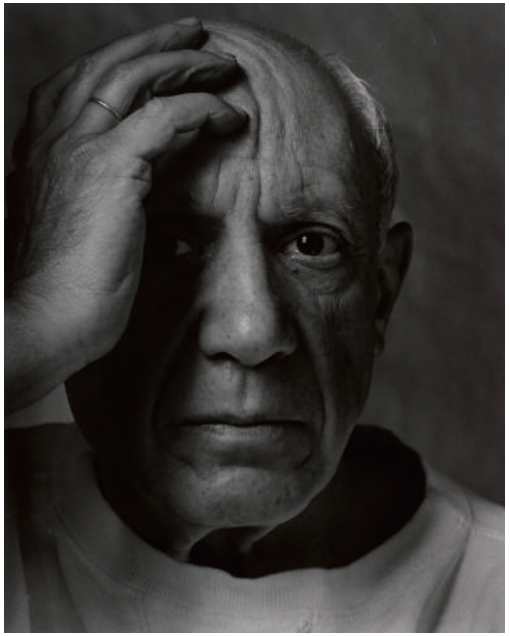


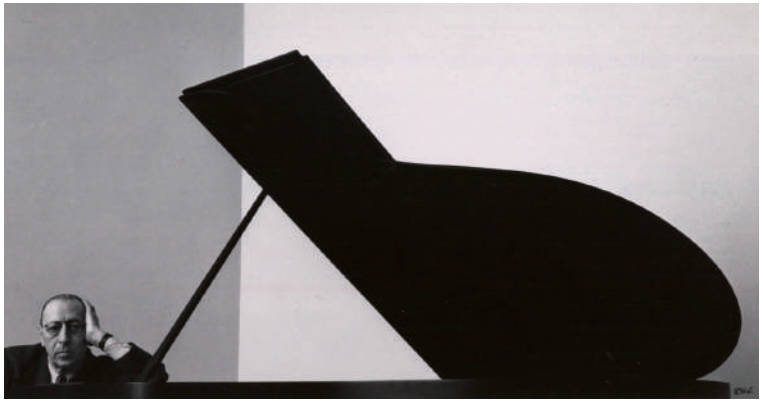
MAP LOCATION 2

アーノルド・ニューマン | Arnold Newman
「マスタークラス」— ポートレートの巨匠 — presented by BMW

肖像写真の巨匠・没後初の回顧展
実物よりも本人らしいと賞賛された作品の秘密とは?

VENUE
二条城 二の丸御殿台所・東南隅櫓





［左より］
アーノルド・ニューマン「パブロ・ピカソ、画家・彫刻家・版画家」ヴァロリス・フランス、1954年 © 1954 Arnold Newman / Getty Images
アーノルド・ニューマン「ロベール・ドアノー、写真家」ニューヨーク、1981年 © 1981 Arnold Newman / Getty Images
アーノルド・ニューマン「イゴール・ストラヴィンスキー、作曲家・指揮者」ニューヨーク、1946年 © 1946 Arnold Newman / Getty Images

MAP LOCATION
2

マリリン・モンローやパブロ・ピカソ、ジョン・F・ケネディ等々、数多くの著名人を撮影したアメリカの写真家アーノルド・ニューマン（1918-2006）の、没後初の回顧展となる本展が、ついに日本上陸を果たした。

彼がニューヨークをベースに仕事を始めた40年代以前は、技術的な理由や習慣から肖像写真といえばスタジオ撮影が基本だった。しかし、ニューマンはカメラとともに自ら出かけ、対象となる人物が慣れ親しんだ住まいやアトリエ、仕事場を撮影場所としたのだ。現場の状況や事物を取り入れることで、被写体の個性やバックグラウンド、および偉業を示唆する表現方法を確立した彼は、“周辺環境ポートレート（An environmental portrait）の父”と呼ばれる。

また個性を的確に伝えるトリミングの妙も、ニューマン作品の大きな特徴だ。例えば、作曲家イゴール・ストラヴィンスキーを写したあの有名な作品。主役は画面の左下隅に小さくおさまり、残りのスペースはグランドピアノの象徴的なフォルムが占めている。もとの写真はもっと引いたフレーミングだったが、このトリミングに決定されたのは推敲を重ねた結果だったことがわかっている。

ニューマンの制作した肖像写真が、今も多くの人々に愛されているのは、おおらかな品位とモダンな美意識で被写体に対する敬意が表されているからではないだろうか。彼が、20世紀を牽引したアメリカ文化の、完成者の一人という側面も忘れてはならないだろう。

特別展示：本展を支援するビー・エム・ダブリュー社は、1975年よりアーティストとのコラボレーションによるアートカーを発表。今回、会場となる二条城台所にて、ニューマンが撮影したアンディ・ウォーホルのポートレートと、ウォーホルがBMW社のために手がけたアートカーをドイツより運び入れ特別展示する。

アーノルド・ニューマン

アメリカ

1918年アメリカ、ニューヨークのマンハッタン生まれ。環境を取り入れた肖像写真“environmental portraits”で知られる。絵画を学ぶため入学した大学を経済的理由から2年で中退、1枚49セントで請け負う肖像写真スタジオで働きはじめる。46年にニューヨークで自身のスタジオを開業した後、Life誌やFortune誌で政治家や俳優等々の優れた肖像写真を発表、20世紀を代表する肖像写真家となった。2006年心臓発作のため死去。享年88歳。

カリキュラム：視覚芸術、社会科学
テーマ：ポートレート、有名人、時間と場所

アーノルド・ニューマンの写真を見て

これらの写真を観察してみてください：被写体はどのように置かれているか（構図）、光はどのように使われているか、被写体とカメラはどれくらい離れているか。
これらの写真に映っている人々についてを考えてみましょう。身体はどんな状態ですか、顔の表情は何を訴えていますか、撮影されている様子を考えます。

話し合い

これらの人々は誰だと思いますか？写真のどの部分が、私たちに彼らが何をしているのかを教えてくれますか？

写真家がどのように被写体（人物）をフレームのなかに入れているか、どのように写真が切り取られているかを見てください。これはあなたが今まで見たことのある人物写真と似ていますか？なぜ写真家はこのような方法で写真を撮影することにしたのでしょうか。

アーノルド・ニューマンは、1940年代の著名人のポートレート写真シリーズで知られる20世紀の有名な写真家の一人です。 彼はパブロ・ピカソ、マリリン・モンロー、ジョン・F・ケネディなどの世界中に名の知れた著名人を自宅や職場などの彼らの日常生活のなかで撮影しました。
あえて日常生活のなかで撮影することは、写真に映る人物について知ることのどれほどのヒントになるでしょうか。

ニューマンの写真が、20世紀のアメリカと世界について私たちに教えてくれるものは何だと思いますか？ これらが貴重であると考えられている理由はなんだと思いますか？

応答

写真家は、彼らが住んでいる時間と場所の視覚的な目で見ることの出来る記録を撮影します。
21世紀の人生の物語を示す視覚的記録（写真、絵、コミック、コラージュ）を作成します。あなたの人生とあなたの世界を形作る最も重要な文化的、社会的な力について考えてみましょう。
あなたのイメージでは、21世紀は100年後にどのように見えているでしょう。

展覧会を見たあとで・・・

この展覧会の空間に入ったとき、どのような気分と感情を持ちましたか。その感情ははあなたが写真を見て理解していくことにどのように影響しましたか。

写真がこのように展示されるに至った経緯を考えてみましょう。キュレーターは、どのように写真と空間の関係をつくりだしたのでしょうか。どのようにして、彼らは写真と空間によって表現された、現在とは非常に異なる文化的背景と時間を橋渡ししたのでしょうか。

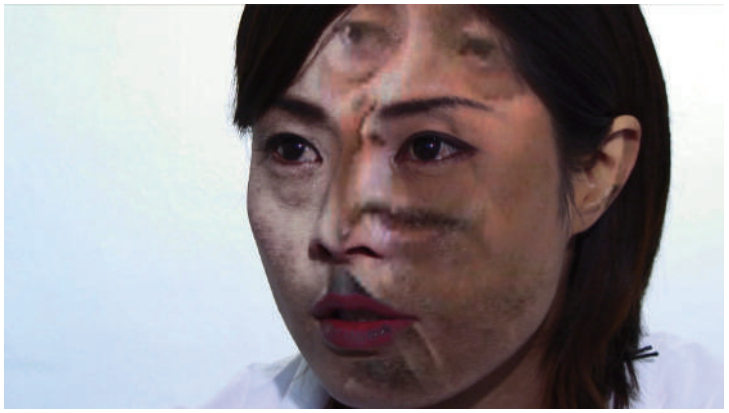
山城知佳子 | Chikako Yamashiro

「土の唄」

MAP LOCATION 03

故郷沖縄から東アジアの《土の人》たちへと
つながる地脈を探る

VENUE
堀川御池ギャラリー 1・2階



［左より］
山城知佳子「コロスの唄 No.13」2010年 © Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
山城知佳子《土の人》2016年 協力：あいちトリエンナーレ2016 © Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
山城知佳子《あなたの声は私の喉を通った》2009年 © Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

MAP LOCATION
03

出身地・沖縄の歴史や政治、文化等をテーマに、写真や映像、パフォーマンスによる作品を発表してきた山城知佳子。とりわけ住民が巻き込まれた太平洋戦争中唯一の地上戦や、現在まで続く基地問題など沖縄とアメリカの関係性は、山城を創作に向かわせる重要テーマであり続けてきた。問題を作家自身にひきつけて思考する一方で、戦後世代ゆえに持てる多様な視点をも探求課題としてきたことが、山城作品の普遍性を深める要因ともなってきたのではないだろうか。

山城の作品は、明白なストーリーを提示するのではなく映像の曖昧さや断片性を前景化させることで多義的な読みを誘う。自らの身体を通じた他者の記憶の継承とその困難さと向き合いながら、沖縄や日本、そして東アジアの歴史へと思考の回路を開こうと試みる。

また、“血の底から吹き上がる呼吸音（≒他者の記憶が生暖かい息を残し語り続けている地響きのような残響）”をモチーフにした「コロスの唄」（2010）の写真作品ほか、「バーチャル継承」「あなたの声は私の喉を通った」「回想法」「黙認のからだ」があわせて展示される。

山城知佳子
日本

1976年沖縄生まれ。2002年沖縄県立芸術大学大学院環境造形専攻修了。写真や映像等を使い、時には自身も被写体となりながら出身地・沖縄を主題に作品を制作してきた。個展に「肉屋の女」（森美術館　MAMプロジェクト2012－2013）等、グループ展に「アジアの女性アーティスト展：アジアをつなぐ―境界を生きる女たち 1984-2012」（福岡アジア美術館ほか 2012-2013）、「From Generation to Generation: Inherited Memory and Contemporary Art」（ユダヤ現代美術館、アメリカ 2016-2017）、あいちトリエンナーレ2016などがある。

カリキュラム：視覚芸術、人文科学
テーマ：愛する場所、故郷、歴史、紛争、記憶、物語

山城知佳子の写真を見て

心に浮かぶ最初の言葉は何でしたか。
あなたはこの写真のなかでどのような独特さと異質なものを感じましたか。

話し合い

これらのシーンでは何が起こっていますか。
これらのカメラで撮影されているシーンは、写真家が演出して創り上げたものだと思いますか。またあなたがそう思う理由はなんですか。

山城さんの作品は、現実とフィクション、生と死、記憶と事実、女性性と身体性の関係をテーマにして制作しています。これらの正反対といえるテーマをはどのように写真に表れていますか。

あなたがこれらの写真の1つのシーンの中に入り込むことができると想像してください。フレームの外ではどんな風景が見えていますか。どんな様子で、どんな匂いがしますか。

山城さんは、故郷の土地である沖縄の歴史と物語に関心を持っています。彼女の写真や映像は、沖縄が背負っている役割と誰が沖縄を所有しているのかについて問いを投げかけています。山城は、これらの写真で故郷への愛をどのように伝えていますか。

応答

あなたにとって重要な場所はどこですか。おそらくあなたが家だと思う場所、またはあなたが何となく特別な場所だと思っているところです。その場所の歴史 - 物語 - を考えてみてください。その場所とあなたの関係、そしてそこがなぜあなたにとって重要なのかを表すために何枚かの写真を撮ったり、絵を描いたり、あるいは短い詩を書いてみてください。

展覧会を見たあとで・・・

山城さんの写真や映画を見たとき、なにを思いましたか。
彼女の作品は、あなたにどこかの場所、あるいはどこかの記憶や物語を思い出させましたか。

あなたがに山城さんに会うことができたら、彼女に何を聞きたいですか？ 彼女があなたに作品について何を思ったか尋ねたとしたら、あなたは彼女に何を伝えますか。

ハンネ・ファン・デル・ワウデ | Hanne van der Woude

「Emmy's World」

MAP LOCATION 5

ユニークな老夫婦を通してみつめる
人生の喜びと悲しみ、友情と夫婦愛

VENUE
嶋臺（しまだい）ギャラリー

［左より］
ハンネ・ファン・デル・ワウデ「バスタブに入る兄弟たち」マラコフ、フランス、2011年 © Hanne van der Woude
ハンネ・ファン・デル・ワウデ「エミーとベン」アルルスーテック村、フランス、2011年 © Hanne van der Woude
ハンネ・ファン・デル・ワウデ「エミーとベン、ベッドにて」《Emmy's World》シリーズより、2013年 © Hanne van der Woude

MAP LOCATION
5

「Emmy's World」は、どこにでもありそうで、実のところかなりめずらしい偶然の出会いに導かれて生まれた作品だ。前作「自然な赤毛」シリーズ（2005-2008）が高く評価され、世界的に注目されはじめていた1982年生まれの女性写真家ハンネ・ファン・デル・ワウデは、街でたまたま知り合った老人ベン・ヨーステンに興味を持ち、撮影の約束をとりつける。グラフィックデザイナーのベンは、オランダのベートゥベにある元校舎の建物に、50年間つれそってきた画家エミーと暮らしていた。

この老夫婦に惹かれたワウデは、多くの時間を共にしながら、6年の歳月をかけて写真や映像を撮影した。途中から加わった南フランスに住むベンの兄エグバートや、ホロホロ鳥のクララも交えた、奇妙な組み合わせの仲間たち。そして、彼らをとりまく美しい自然の風景……。

個性が強い面々の中でも、とりわけ傑作なのがエミーだろう。彼女は1日じゅう疲れ知らずで働き、同時に蒐集癖を発揮していろいろなものを積み上げていく。病に倒れたベンを介護し、地区の福祉員に報告するため、容態をこまごまと記録し、そして彼の肖像を描き、写真にも撮る。これらの行為をワウデが記録し、作品の一部となっていった。

そして、とうとうエミーの世界を一変してしまう事態が訪れる。それは、エグバートと、つづいて最愛の夫ベンの、この世からの旅立ちである。

この少々風変わりな作品は、老いてもなお生きる情熱を持ちつづけ、クリエティヴィティを失わなかった老人たちと、若い写真家とのコラボレーションの成果である。そして、そこに浮かび上がるのは、これからの世界でより一層重要になっていくに違いない、世代を超えて育まれる友情や、深い夫婦愛といった普遍的なテーマだ。

本作は、アムステルダム写真美術館およびフランクフルト写真フォーラムで個展開催され、京都への巡回を果たしたものである。

ハンネ・ファン・デル・ワウデ

オランダ

1982年オランダ、ナイメーヘン生まれ。ArtEZ（在アルンヘムの芸術専門学校）および、Fotovakschool（在アペルドールンの高等写真専門学校）で学んだ後、プロの写真家として活動しながら作品制作を行う。オランダの美しい自然とともに赤毛を持つ人々の肖像を写した「Natural Red Hair」（2005-2008）、老夫婦のもとに通い日常を撮影した「Emmy's World」（2009-2015）が高く評価され、期待の若手作家として世界的に注目される。清里フォトアートミュージアムの「ヤング・ポートフォリオ」コレクションに収蔵され、2014年に東京都写真美術館の「原点を、永遠に。」展にも出展した。年に東京都写真美術館の「原点を、永遠に。」展にも出展した。

カリキュラム：視覚芸術、社会科学
テーマ：ポートレイト、有名人、時間と平和

ハンネ・ファンデル・ワウデの写真を見て

写真に写っている人たちを見てください。彼らが何をしているこのか、彼らがどんなやりとりしているかを観察してみてください。

話し合い

これらの写真に写っている人々の関係はどんな関係ですか？彼らの感情や気持ちは写真のどの部分から読み取ることが出来ますか。

ハンネ・ファンデル・ワウデは、6年以上にわたり、オランダ東部の自宅で50年間連れ添ってきた夫婦であるジョン・ヨーコステンとエミーを、そしてフランス南部に住むベンの兄、エグバードを撮影しました。

ハンネ・ファンデル・ワウデは、なぜこの年配の夫婦を6年間にもわたり撮影したと思いますか。あなたは彼女がこれらの写真を通して何を私たちと共有したかったんだと思いますか。

写真は、自分以外の人々がどのように世界を体験しているかを、人々の生活を写すことによって教えてくれます。
これらの写真はベンとエミーについて何をあなたに教えてくれましたか。

ベンとエミー夫妻の物語は、世界中の人々の経験とどれほど関連していると思いますか。

応答

「Emmy's world」から3枚の写真を選んでください。 写真のなかで何が起こっているのか、これらの場面でどんな会話がなされているか、写真がどのように物語として結ばれ、ベンとエミーの人生についてどのようなことを明らかにしているかを考えてみましょう。
これらの写真を通して短い物語を書いてみましょう。。

展示を見たあとで・・・

すべてのベンとエミーの写真を見て何を学びましたか。

愛、家族、友情について思い返してみてください。これらのテーマについて展示作品のどの部分で考えさせられましたか。

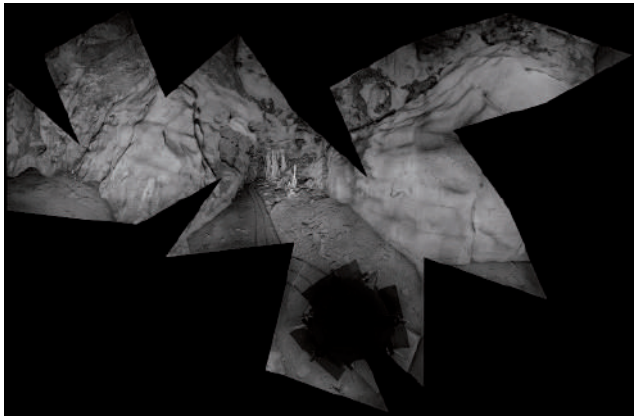
ラファエル・ダラポルタ｜Raphaël Dallaporta

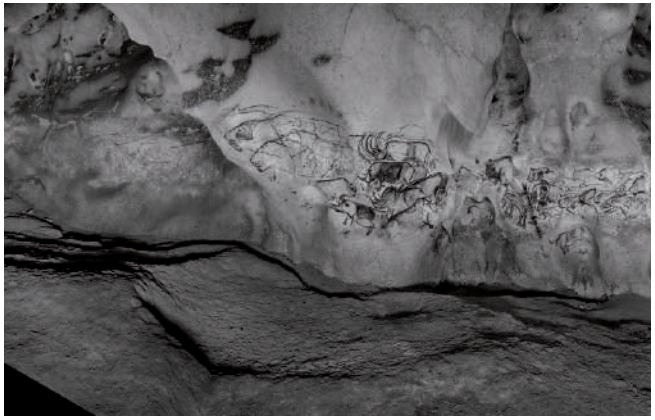
「ショーヴェ洞窟」

MAP LOCATION 08

意欲作を発表し続ける新鋭の若手写真家が
大規模な4Kインスタレーションで再現する世界最古のアート

VENUE
京都文化博物館 別館1階





ラファエル・ダラポルタ「The elusive Chauvet – Pont-d'Arc Cave(Éditions Xavier Barral）」2016年
© Raphaël Dallaporta / Éditions Xavier Barral

MAP LOCATION
08

フランス南部のアルデシュ県に位置するショーヴェ洞窟。ここで1994年に発見された壁画は、約3万6,000年前に描かれたものと推定される。かつては一番古いと考えられていたラスコー洞窟壁画が約2万年前のものと知れば、この発見がいかに重大であったかがわかるだろう。保護のため通常非公開となっているショーヴェ洞窟の壁画には、クマ、ライオン、バイソンなど、ほかの洞窟壁画には見られない動物も描かれているという。

2014年、この現存する最古のアートを撮影する写真家を選ぶべく、フランス文化・通信省とアルデシュ県ポンダルク－ショーヴェ洞窟支援組合が、ショーヴェ洞窟写真コンペを開催した。そこでグランプリを受賞したのが、新鋭作家ラファエル・ダラポルタだ。これまでも地雷撤去や法医学のチームと組んだり、ドローンを用いて戦時中のアフガニスタンの遺跡を撮影するなど、他分野の専門家との協力で特殊な撮影を行い、社会的問題を扱いながらも、人類の命の尊厳や脆さを表現する独創的な作家である。

複雑で起伏の激しい地形の洞窟内を、暗闇で撮影することは非常に困難な作業であったに違いない（そのために、ダラポルタはLEDパネル3枚を配した撮影用ロボットを使用した）。しかし、最大の課題は、この空間をいかに2次元で表現するかということだったという。そこで作家が着想を得たのが、バックミンスター・フラー（20世紀の建築家・思想家）が発明したダイマクション・マップだった。地球という球体を様々な展開図に投影して表す手法で、これを360度撮影した洞窟写真の加工に応用したのだという。

本展ではその展開図を使った作品のプリント展示とともに、巨大な円弧状を成す4K超高画質ディスプレイ（3.9m×12.8m）を使った迫力ある映像インスタレーションで、ショーヴェ洞窟の幻想的かつ礼厳な空間が再現される。

ラファエル・ダラポルタ
フランス

1980年フランス生まれ。パリ第一大学およびゴブラン映像高等教育学校等で学ぶ。地雷を撮った静物写真のシリーズ「Antipersonal」（2005）が世界的に評価され、以後、現代の隠された奴隷労働をテーマにした「Domestic Slavery」（2009）やドローンを使いアフガニスタンの地形を撮影して画像を再構成した「Ruin」（2013）等、意欲作を続けて発表。2010年にはICP（国際写真センター、ニューヨーク）より優れた若手作家に授与されるInfinity Awardを受賞している。

カリキュラム：視覚芸術、地理学、歴史、科学
テーマ：考古学、人類の歴史、場所と時代にまつわる人類の歴史

ラファエル・ダラポルタのショーヴェ洞窟を見て

これらの写真にはなにが写っていますか。
写っている絵やマークについてどのように説明しますか。

話し合い

いつ、どのようにしてこれらの絵が描かれたと思いますか。
そしてそれを描いたのは一体誰だと思いますか。

ショーヴェ洞窟の壁に描かれている絵は、およそ30,000年前に描かれたといわれており、これは人類の最も古い歴史の１つで、ショーヴェ洞窟に描かれる絵は、言語が出来る以前のコミュニケーションの一番最初の形とだといわれています。
3万年以上の間、人間文明がどのように発展してきたか考えてみましょう。

これらの絵を描いた人々の生活はどのようなものだったと思いますか。
現代に生きる人間とこれらの絵を描いた人間との間で違いがあるとすれば、それは何ですか。反対に私たちと古代の人々の間で共通するもの何だと思いますか。

なぜ人々がこの絵を描いたと思いますか。
あなたは彼らがこれらの絵を通じてなにを伝えようとしたと思いますか。

応答

30,000年以上前から、人間は視覚言語を通じて世界に存在を示してきました。今から3万年後に、ある探検家があなたが生きていた、という証拠を見つけたと想像してみてください。あなたが今日のわたしたちがどのように生きているかを未来に伝えるとしたらなにを描きますか。未来の探検家がわたしたちを知る重要な手がかりになるように、わたしたちの存在の象徴となるようなものシンプルに描いてみましょう。

展覧会を見たあとで・・・

この作品の展示の方法について特別な、または重要なことは何でしたか。

あなたは展示空間のなかで別の場所や時間に運ばれましたか。写真は何をあなたに考えさせましたか。

作品の説明は、ショーヴェ洞窟の重要性を理解するのにどのように役立ちましたか？

イサベル・ムニョス | Isabel Muñoz

「Family Album」

MAP LOCATION 11

スペイン人女性写真家がとらえる
烈しい情熱と根源的な愛

VENUE
誉田屋源兵衛 黒蔵

［左より］
イサベル・ムニョス「キャンプ・リーキー」《霊長類》シリーズより、ボルネオ、2015年 © Isabel Muñoz
イサベル・ムニョス「ラ・ヴァレ・デ・シーニュ」《霊長類》シリーズより、ロマーニュ（フランス）、2015年 © Isabel Muñoz
イサベル・ムニョス「ボノボの楽園」《霊長類》シリーズより、コンゴ民主共和国、2014年 © Isabel Muñoz

MAP LOCATION
11

昨年、スペインの国民写真賞（the National Photography Prize 2016）を受賞したイサベル・ムニョスは、名実ともにヨーロッパを代表する女性写真家の一人だ。彼女の名を世界的に知らしめた仕事の一つに、タンゴを撮った一連のシリーズがあるが、その他、エチオピアの戦士や、闘牛士などを被写体に、身体の美や官能性、また根源的な愛や生命力を、写真によって探求してきた。本展はこのムニョスの作品を本格的に紹介する、国内初の個展となる。

展示は2シリーズからなる。「Family Album」は、コンゴ民主共和国北西部のバサンクスとルウェロ、そしてカフジ＝ビエガの森林地帯で撮影したゴリラやボノボ、チンパンジーなどの霊長類の肖像写真である。ヒトと共通するDNAを持つゴリラは、京都大学理学研究科長・山極寿一教授の研究でも知られるように、人間による家族形成のルーツを探る対象となるほど、私たちと似た行動様式を持っている。その一方で、人よりはるかに純粋で、そして率直で烈しい愛を表すのである。鑑賞者は、ムニョスの作品にとらえられた霊長類たちの豊かな表情に驚かされ、また同時に、共感と思索のきっかけを得ることができるだろう。

「Love and Ecstasy」は 全く違うアプローチで根源的な愛を探求したシリーズだ。スーフィズムの名で知られるイスラム教神秘主義スーフィーの激しい旋回舞踏や、世界各国の狂信的な宗教儀式を写した作品によって構成される 。

自我を脱却し、神と一体となることを希求して行われる、この儀式的舞踏を取材するため、ムニョスはシリア、イラク、トルコを訪れ、取材した。さらに未公開の誉田屋源兵衛黒蔵3階「天空八角の間」にて、純粋かつ過激な狂信的信者たちの姿をとらえた「Love and Ecstasy」の最新作を入場制限して初公開する。

イサベル・ムニョス／写真家

スペイン

1951年スペイン、バルセロナ生まれ。マドリードでの初個展「Toques」（1986）以来、世界各地で作品を発表し、最も有名なスペイン人写真家の一人となる。初期代表作にタンゴとフラメンコを撮ったシリーズ《Tango and Flamenco》（1989）があるが、スーフィズムやエチオピアの部族など、撮影を通じて人間の肉体美や根源的な情熱のあり方を探求してきた。受賞歴にスペイン文化省が授与するthe Gold Medal for Merit in Fine Arts等。

カリキュラム：視覚芸術、人文科学
テーマ：宗教、信仰、人体、運動、共感

イサベル・ムニョス「ファミリーアルバム」を見て

これらの動物はどのように撮影されていると思いますか。
カメラは動物とどれくらい離れているでしょうか。
写真家が白黒で写真を撮影することを選択したことに注目してください。白黒の写真はわたしたち写真を見る側の気分や感情にどのように影響しますか。

話し合い

今までに家族写真を撮ったことはありますか。
立ち位置についてカメラマンからどのような要求を受けましたか。家族写真を撮影する目的は何でしたか。
なぜムニョスはこのシリーズに「ファミリーアルバム」という題名をつけたのでしょうか？
彼女が私たちになにについて考えさせようとしていると思いますか？
これらの動物たちの生活は、人間としての私たちの生活にどのように関係していますか？

応答

家族や愛について動物たちの生活から何を学ぶことができますか？　これらの写真へのあなたの感想を短い文章で書いてましょう。

展覧会を見たあとで・・・

写真により近寄って見たとき、なにか気付かなかった発見がありましたか。

あなたが写真を見たときの反応を説明してください。前に見たときとは違った反応をしましたか。

あなたが写真を見ていたとき、何を感じましたか。

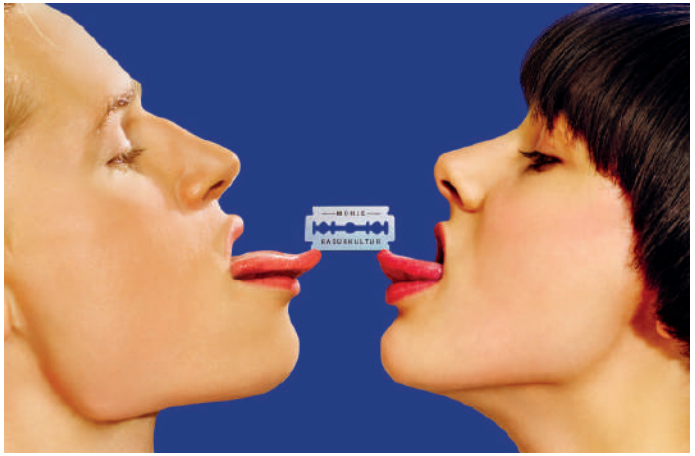
これらの写真は、あなたの動物への考え方にどのような影響を与えましたか。それはあなたの家族と愛を理解することに役に立ちましたか。

MAP LOCATION 14

TOILETPAPER
Maurizio Cattelan & Pierpaolo Ferrari
presented by FUJIFILM

シュールなビジュアルと恐れを知らない遊び心
話題のアートフォトマガジンによる圧巻のインスタレーション

VENUE
ASPHODEL



Photography by TOILETPAPER: Maurizio Cattelan and Pierpaolo Ferrari.

MAP LOCATION
14

TOILETPAPER
Maurizio Cattelan & Pierpaolo Ferrari

現代美術作家のマウリツィオ・カテランとファッション写真家のピエールパオロ・フェラーリが、アートディレクターにミコール・タルソを迎えて2010年に発刊したアート雑誌。シュールかつ挑発的なヴィジュアルが注目され、アルル国際写真フェスティバル2016や、アートバーゼル　マイアミ・ビーチ2016でのインスタレーション等、さまざまなジャンルに表現の場を広げてきた。

雑誌「TOILETPAPER　Magazine（トイレットペーパー・マガジン」は刺激的なコンセプトと、シュールなヴィジュアルが世界的に注目される、テキストの一切ないアートフォトマガジンである。見るものを圧倒するイメージの過剰さ、恐れを知らない遊び心も、雑誌を創刊し、制作に携わる主要二人の経歴を知れば、納得できるだろう。コンテンポラリーアーティストのマウリツィオ・カテランはイタリアを代表する作家の一人だが、これまでニューヨーク証券取引所に中指を立てた巨大な手の彫刻を設置したり、生身のキュレーターをガムテープで壁に“展示”したり……と、発表する作品はいつも大きな議論を巻き起こしてきた。また、ピエールパオロ・フェラーリは第一線で活躍するファッション写真家であり、ナイキやソニー等々大手企業の広告や、「L'Uomo VOGUE」等国際的な一流誌で表紙写真を手がけてきたほか、2006年にはアート雑誌「Le Dictateur」の発行を実現した実績を持つ。

2010年、この二人がアート・ディレクターにミコール・タルソを迎え、共同で「トイレットペーパー・マガジン」を創刊、雑誌以外にも活動の場を広げてきた。例えば、アメリカ最大のアートイベント、アート・バーゼル　マイアミビーチ　2016では、写真イメージで覆ったインテリア等を使い、圧巻のインスターレションを披露している。

今回は、3階建ビル全棟を使い、彼らの出身国イタリアの食文化やサブカルチャー等々をモチーフに、インパクトあるインスタレーションを展開する予定となっている。

またFUJIFILMの最新カメラGFXを使用した撮り下ろし作品を展示予定。週末には写真家が来場者を撮影したプリントが持ち帰れるTOILETPAPERスタジオが開設される。

カリキュラム：グラフィックデザイン、メディア、視覚芸術
テーマ：ビジュアルコミュニケーション、現代メディア

TOILETPAPERの写真を見て

あなたが見ている奇妙でどこか楽しげなこれらのイメージは一体何なのでしょうか。

これらのイメージを言葉で表現するとしたら、どのような言葉を使いますか。

話し合い

TOILETPAPERの写真へのあなたの最初の反応はなんでしたか。

ここではなにが起こっているのでしょうか。なぜあなたはデザイナーがこのイメージを作成したと思いますか。

「私たちが自分自身を見つけるのは、常に私たちが予想していなかった場所です。最高のイメージはアドリブで制作されるのです。」
- マウリツィオ・カテラン、The New Yorker
彼のこの発言はカテランとフェラーリのデザインの過程についてなにを教えてくれますか。

「私たちは常にTOILETPAPERのイメージを追求し続けています。香水を蒸留するのと同じように。これは、特定のスタイルや時間の枠に限定するものではありません。TOILETPAPERのデザインに必要なのは奇妙で曖昧な特別なひとひねりです。」
- マウリツィオ・カテラン、The NewYorker

本や雑誌などの出版の時代は終わったのでしょうか。カテランとフェラーリの姿からわたしたちは何が学べると思いますか。

視覚イメージで溢れた現在の文化に、TOILETPAPERはどのように貢献していると思いますか。

応答

雑誌や新聞の既存のイメージを使用してオリジナルのイメージをつくってみましょう。イメージを切り取り、繋げて、重ねたり、継ぎはぎしたり、縫い合わせたりして新しいユニークなビジュアルをつくってみてください。終了したら、新しいイメージは元のイメージの意味や目的をどのように塗り替えたか考えてみてください。そしてあなたの意見をみんなと共有してみましょう。

展覧会を見たあとで・・・

この展覧会へのあなたの反応はどうですか。
Toiletpaper Magazineの写真のなにが興味深いチャレンジだと感じましたか。

この展覧会は、私たちが今日生きる世界と視覚メディアとの関係について何を教えていますか？

ザネレ・ムホリ | Zanele Muholi

「Somnyama Ngonyama | 黒き雌ライオン、万歳」

MAP LOCATION 15

歴史と対話し、黒人女性自らの存在を祝福する
セルフポートレートともに発信される希望

VENUE
FORUM KYOTO

［左より］
ザネレ・ムホリ「Phindile I, Paris」2014年 © Zanele/Stevenson/Yancey Richardson
ザネレ・ムホリ「Nolwazi II, Nuoro, Italy」2015年 © Zanele/Stevenson/Yancey Richardson
ザネレ・ムホリ「Sandile, Parktown」2016年 © Zanele/Stevenson/Yancey Richardson

MAP LOCATION
15

ザネレ・ムホリは南アフリカ共和国をベースに活躍する“ヴィジュアル・アクティヴィスト”。黒人女性の立場でレズビアンであることをカミングアウトしている彼女は、芸術活動を通じ、社会的な意識変革を目指した運動を積極的に展開してきた。本展示作「黒き雌ライオン、万歳」の原題「Somnyama Ngonyama」はムホリの母語ズールー語によるもので、黒人女性を差別や内なる卑下から解放し、祝福しようという強い意志を表明したものであると言えよう。そして、その目的ために彼女が採った手段は写真によるセルフポートレートであり、そこに写すのはさまざまな日用品を装飾品のようにまとい、自ら演出した姿である。

例えば、家事仕事を暗喩する洗濯バサミを冠のようにまとい、威厳をもって写る作品「Bester 1, Mayotte」(2015)。ムホリの母親を含む数え切れないほど多くの黒人たちは、白人家庭で住み込みの使用人として働いてきたが、彼らは何の教育も受けていないながら、立派に子供を育ててきたのだ。この作品を通してムホリが讃えているのは、そんな彼女らの知られざる偉業である。

南アフリカ共和国では、人種隔離政策(ルビ:アパルトヘイト)時代、黒人のみが身分証明書の携帯が義務付けられていた。つまり、この時代の証明写真は黒人たちにとって権力者によって管理されている状況を示し、また無効化されたアイデンティティの象徴でもあるのだ。ムホリの作品は、そのような歴史ひとつひとつとの対話ともなっているのである。

ザネレ・ムホリ/ヴィジュアル・アクティヴィスト

南アフリカ共和国

1972年南アフリカ共和国ウムラジ生まれ。ヨハネスブルグ在住。南アフリカにおけるレズビアンやゲイ等、LGBTが置かれてきた困難な状況を知らしめ、また意識改革を促すことを目的に作品を制作してきた。代表作「Face and Phases(顔貌と位相)」(2006-2011)は第55回ヴェネチア・ビエンナーレ(2013)等で広く世界に紹介された。受賞歴にICP(国際写真センター、ニューヨーク)主催の Infinity Award(ドキュメンタリー&報道写真部門)等多数。

カリキュラム：視覚芸術、人文科学
テーマ：アイデンティティ、愛、多様性、女性、ポートレイト、共感

ザネレ・ムホリの写真を見て

あなたはこれらの写真を見て何に気付きましたか。
写真の光と色の質を見てみましょう。それらによってどのような感情が引き出されてきましたか。

話し合い

これらの写真で撮影された女性の顔に注目してください。あなたは彼女がなにを考え、なにを感じていると思いますか。

何百年もの間、芸術家は多くの異なる方法で、そして多くの異なる目的のために肖像画を作りました。アーティストが誰かの肖像画を作りたいと考えるさまざまな理由にはどんなものがありますか。
ムホリの写真を見て、なぜ彼女はポートレートを撮ることにしたと思いますか？

ムホリの写真は、南アフリカの黒人女性の間のセクシュアリティとアイデンティティを探求しています。彼女はジェンダー、人種、格差についての私たちの偏見やイメージと向き合い、それらのイメージがどのように彼女自身を形作っているのかに興味を持っています。
ムホリが作品を通してこれらのテーマを探求するのはなぜだと思いますか。
わたしたちはこれらの写真を通して、他者と自分の違いと多様性について何を学ぶことができますか。

応答

ポートレイトは、人の外観だけでなく、その人物の物語やアイデンティティについても写し出します。
ポートレートを作成したい友達または家族を選んでください。写真だけでなく、絵画、あるいは彫刻でもかまいません。その人の最も興味深い部分や性格を考えたり、インタビューをしてみて相手の姿を知りましょう。身体のうごき、衣服、表情、色、模様、光などを変化させて、相手の肖像をポートレートでどのように捉えることができるか考えてみましょう。そのポートレートを通してどんなストーリーを伝えたいですか。

展覧会に見たあとで・・・

展覧会の写真にのなかで引きつけられるものはありましたか。
それはどれですか。また理由は何だと思いますか。

これらの写真は、全く異なる、あるいは自分の経験と重なり見せる世界の人々の経験について何を伝えてくれましたか。

KYOTOGRAPHIE では、授業でお越しの教育機関の方を対象にチケット割引サービス、また学校向けのガイド付きの展覧会ツアーを行っております。
生徒の学習目標に合わせてガイドツアーをアレンジすることが可能です。お問い合わせの上、グループの年齢層、言語、希望する展覧会をお伝えください。
希望する展覧会がこのエデュケーションキットに含まれていない場合も、お問い合わせくださいませ。
学校と生徒たちにとって学びの機会を一緒に創り上げていけることをうれしく感じております。
ご意見お待ちしております。

ミーティングやガイドツアーの予約・お問い合わせはこちらまでお願いします。
教育プログラムディレクター：
lauren.hadler@kyotographie.jp
または
marguerite.paget@kyotographie.jp

今回のエデュケーションキットのために、展覧会のカリキュラム内容と文章を執筆してださったLaura Dortmansさん（国際バカロレア視覚芸術部門教師（MYP&DP）神戸カナディアンアカデミー代表）に心より感謝を申し上げます。

The education program, KIDS events & KYOTOGRAPHIE KIDS PASSPORT are made possible with the support of PETIT BATEAU